専攻分野/コース (英文名)	臨床腫瘍学 (Clinical oncology)
研究指導教員	砂川 優

研究・教育の概略

現在日本人では、2 人に 1 人が「がん」に罹患し、3 人に 1 人が「がん」で亡くなっています。多くの「がん」では外科的切除術で治癒可能な病期でも周術期補助化学療法が標準治療となっており、抗がん剤治療を受ける患者の数は年々増加し、その専門家である腫瘍内科医の需用が益々高まってきております。「がん」医療の現場では、Evidence Based Medicine(EBM)に基づく標準治療を行うだけでなく、状態の悪い患者や EBM がなくなった患者に対する適切な治療、臨床試験などにより新たなエビデンスを作るなど EBM を越えた医療(臨床研究)を行うことが必要です。

臨床腫瘍学大学院では、以下の 3 つの達成目標を設定し、専門医・研究者の育成を目指しています。1)広く標準治療を理解し、行うことができるようになる、2) EBM を越えた医療について議論し、実践できるようになる、3)ゲノム解析や基礎医学的な議論ができるようになる。そのためには、各臓器別の総論についての講義にて、それぞれの標準治療を学び、各論の講義では具体的な症例について、治療方針の決定、支持療法、緩和医療などを指導教官と議論しながら、臨床的な疑問を自ら発見し解決方法を探索できる能力を身につけてほしいと考えています。さらには、近年の分子標的薬の発展は目覚ましいものがありますが、特に臨床早期開発においてはゲノム解析や基礎医学の知識が要求されており、3)がんゲノムについて学んでほしいと考えています。具体的には、以下のカリキュラムを用意しています。

1) 第 1 学年では、日本臨床腫瘍学会が認定するがん薬物療法専門医取得を目指す。
   1. 臨床腫瘍学総論の講義を通年で行う。
   2. 必須科目として、胃・大腸・肝・肺・乳腺・血液疾患について各論の講義を受け、~~各論では~~実際の診療での疑問・問題点の解決法を身につけて症例報告書を作成する。
2) 第 2 学年では、選択科目としてその他の専門領域について学ぶことも選択可能。
3) 第 2-3 学年では、がんゲノム解析や基礎実験を含め、学位取得のための論文を作成する。
4) 第 4 学年では、指導のもと自らが主体となって、がん医療を実践、臨床試験に参加する。

当教室にとどまるだけでなく、大学全体の他教室やさらには学外のがん診療専門施設での研修も可能。

研究項目

1. 固形がんに対する治療開発に関する研究
2. がん治療における分子腫瘍学に関する研究
3. がんのゲノム解析・基礎研究
4. 薬物療法における支持・緩和療法に関する研究

準備学習(予習・復習)

新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。

2025 年度講義シラバス（１）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	臨床腫瘍学総論			必修/選択	必修
担当教員	砂川　優	担当教員連絡先	内線　3316		
単位数	2 単位（前期 1･後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	がん薬物療法専門医に必要な臨床腫瘍学の基礎知識の習得				
講義計画	日本臨床腫瘍学会の教育カリキュラムに沿った講義				
達成目標	がん薬物療法専門医に必要な臨床腫瘍学の基礎知識の習得				
教科書･参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習･復習･時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価				
卒業認定･学位授与の方針との関連性	臨床研究を立案･計画し、結果を考察して論文発表する能力を得ることを目的とする				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	Molecular Biology	16	殺細胞性抗がん薬
2	Molecular Methods	17	分子標的治療薬
3	がんの病因、疫学と予防	18	免疫療法
4	臨床試験	19	プレシジョン･メディシン
5	がん検診･がん研究の社会的側面	20	HIV 関連悪性腫瘍
6	画像診断	21	腫瘍随伴症候群
7	内視鏡診断	22	転移がんの治療
8	病理診断･TNM 分類	23	オンコロジー･エマージェンシー
9	腫瘍マーカー	24	副作用対策と支持療法
10	腫瘍外科学総論	25	がん患者のリハビリテーション
11	放射線腫瘍学	26	緩和療法
12	Inteventional Radiology	27	がんの社会心理学的側面
13	薬物療法総論	28	チーム医療
14	抗がん薬の薬理学	29	遺伝相談
15	抗がん薬の投与方法	30	がんゲノム医療

2025 年度講義シラバス（２）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	臨床腫瘍学 実習			必修/選択	必修
担当教員	砂川 優	担当教員連絡先	内線 3316		
単位数	1 単位（通年）	履修年次	1 年		
テーマと目的	がん薬物療法専門医に必要な臨床腫瘍学の基礎知識の習得				
講義計画	日本臨床腫瘍学会の教育カリキュラムに沿った講義				
達成目標	がん薬物療法専門医に必要な臨床腫瘍学の基礎知識の習得				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	臨床研究を立案・計画し、結果を考察して論文発表する能力を得ることを目的とする				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 （出席㊞）	後期(回)	内 容 （出席㊞）
1	Molecular Biology	16	殺細胞性抗がん薬
2	Molecular Methods	17	分子標的治療薬
3	がんの病因、疫学と予防	18	免疫療法
4	臨床試験	19	プレシジョン・メディシン
5	がん検診・がん研究の社会的側面	20	HIV 関連悪性腫瘍
6	画像診断	21	腫瘍随伴症候群
7	内視鏡診断	22	転移がんの治療
8	病理診断・TNM 分類	23	オンコロジー・エマージェンシー
9	腫瘍マーカー	24	副作用対策と支持療法
10	腫瘍外科学総論	25	がん患者のリハビリテーション
11	放射線腫瘍学	26	緩和療法
12	Inteventional Radiology	27	がんの社会心理学的側面
13	薬物療法総論	28	チーム医療
14	抗がん薬の薬理学	29	遺伝相談
15	抗がん薬の投与方法	30	がんゲノム医療

2025 年度講義シラバス（３）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（Ｉ）:消化管がん			必修/選択	必修
担当教員	伊澤　直樹	担当教員連絡先	内線　3316		
単位数	1 単位（前期）	履修年次	1 年		
テーマと目的	消化管がんに対する標準治療の理解				
講義計画	消化管がんの疫学から集学的治療まで、下記の内容を講義する				
達成目標	食道がん・胃がん・大腸がんの標準治療に対する知識の習得				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	臨床研究を立案・計画し、結果を考察して論文発表する能力を得ることを目的とする				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　　(出席㊞)
1	食道がんの疫学・病理分類・肉眼分類
2	食道がんの臨床像・検査と診断法
3	食道がんの病期分類と治療ガイドライン
4	食道がんの化学療法
5	食道がんの集学的治療
6	胃がんの疫学・病理分類・肉眼分類
7	胃がんの臨床像・検査と診断法
8	胃がんの病期分類と治療ガイドライン
9	胃がんの化学療法
10	胃がんの集学的治療
11	大腸がんの疫学・病理分類・肉眼分類
12	大腸がんの臨床像・検査と診断法
13	大腸がんの病期分類と治療ガイドライン
14	大腸がんの化学療法
15	大腸がんの集学的治療

2025 年度講義シラバス（４）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（Ⅰ）：消化管がん・症例検討			必修/選択	必修
担当教員	砂川　優（前期 1・後期 1）	担当教員連絡先	内線　3316		
単位数	2 単位	履修年次	1 年		
テーマと目的	消化管がん症例について臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	臨床研究を立案・計画し、結果を考察して論文発表する能力を得ることを目的とする				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

2025 年度講義シラバス（５）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（Ⅰ）：胆膵がん			必修/選択	必修
担当教員	砂川　優	担当教員連絡先	内線　3316		
単位数	1 単位（前期）	履修年次	1 年		
テーマと目的	胆・膵がんに対する標準治療の理解				
講義計画	胆・膵がんの疫学から集学的治療まで、下記の内容を講義する				
達成目標	胆・膵がんの標準治療に対する知識の習得				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	臨床研究を立案・計画し、結果を考察して論文発表する能力を得ることを目的とする				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　　（出席㊞）
1	胆道がんの疫学・病理分類・肉眼分類
2	胆道がんの臨床像・検査と診断法
3	胆道がんの病期分類と治療ガイドライン
4	胆道がんの化学療法
5	胆道がんの化学放射線療法
6	胆道がんの周術期化学療法
7	胆道がんの分子標的治療
8	膵がんの疫学・病理分類・肉眼分類
9	膵がんの臨床像・検査と診断法
10	膵がんの病期分類と治療ガイドライン
11	膵がんの化学療法
12	膵がんの化学放射線療法
13	膵がんの周術期化学療法
14	局所進行膵がんに対する治療戦略
15	膵がんの分子標的治療

2025 年度講義シラバス（６）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（Ⅰ）：胆膵がん・症例検討			必修/選択	必修
担当教員	砂川　優（前期 1・後期 1）	担当教員連絡先	内線　3316		
単位数	2 単位	履修年次	1 年		
テーマと目的	胆膵がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	臨床研究を立案・計画し、結果を考察して論文発表する能力を得ることを目的とする				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

2025 年度講義シラバス（７）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（Ⅰ）：肝臓がん			必修/選択	必修
担当教員	渡邊 綱正	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1 単位（前期）	履修年次	1 年		
テーマと目的	肝がんに対する標準治療の理解				
講義計画	肝がんの疫学から集学的治療まで、下記の内容を講義する				
達成目標	肝がんの標準治療に対する知識の習得				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	肝臓がんに関する一般的知識、標準的治療につき説明する能力を修得する				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 （出席㊞）
1	肝がんの疫学・病理分類
2	肝の機能評価
3	肝がんの発生と予防方法
4	肝がんの臨床像
5	肝がんの検査と診断法
6	肝がんの病期分類と治療ガイドライン
7	肝がんの手術療法
8	肝移植術
9	肝がんの壊死療法
10	肝がんの動脈化学塞栓療法
11	肝がんの放射線療法
12	肝がんの薬物動注療法
13	肝がんの全身化学療法
14	肝がんに対する分子標的薬
15	肝がんの集学的治療

2025 年度講義シラバス（８）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（Ⅰ）：肝がん・症例検討			必修/選択	必修
担当教員	渡邊 綱正（後期）	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	2 単位	履修年次	1 年		
テーマと目的	肝がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。 1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	原発性肝癌症例において、標準治療をふまえた上で症例固有の状況に応じた治療選択につき報告できる能力を養う				

講 義 内 容

前期(回)	内 容 (出席㊞)	後期(回)	内 容 (出席㊞)
1		1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

2025 年度講義シラバス（９）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（Ⅱ）：呼吸器がん			必修/選択	必修
担当教員	峯下　昌道	担当教員連絡先	内線　3370		
単位数	1 単位（前期）	履修年次	1 年		
テーマと目的	呼吸器がんに対する標準治療の理解				
講義計画	呼吸器がんの疫学から集学的治療まで、下記の内容を講義する				
達成目標	呼吸器がんの標準治療に対する知識の習得				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力を得ることを目的とする。本講義は肺がんに対する標準治療に関する臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　　（出席㊞）
1	肺がんの疫学・病理分類
2	肺がんの臨床像・検査と診断法
3	肺がんの病期分類と治療ガイドライン
4	臨床病期 I 期の小細胞肺がんに対する治療法
5	限局型(LD) の小細胞肺がんに対する治療法
6	臨床病期 IV 期の小細胞肺がんに対する化学療法
7	小細胞肺がんに対する分子標的薬
8	臨床病期 I—II 期の非小細胞肺がんに対する治療法
9	臨床病期 III 期の非小細胞肺がんに対する治療法
10	臨床病期 IV 期の非小細胞肺がんに対する治療法
11	非小細胞肺がんに対する集学的治療
12	非小細胞肺がんに対する分子標的薬
13	肺がん脳転移に対する治療
14	Superior sulcus tumor（SST）
15	高齢者肺がんに対する化学療法

2025 年度講義シラバス（１０）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（Ⅱ）：呼吸器がん・症例検討			必修/選択	必修
担当教員	峯下　昌道	担当教員連絡先	内線　3370		
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	呼吸器がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、論文を作成して発表する能力を得ることを目的とする。本講義は肺がんに対する標準治療に関する臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

2025 年度講義シラバス（１１）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（Ⅱ）：乳がん			必修/選択	必修
担当教員	津川　浩一郎	担当教員連絡先	内線　3223		
単位数	1 単位（前期）	履修年次	2 年		
テーマと目的	乳がんに対する標準治療の理解				
講義計画	乳がんの疫学から集学的治療まで、下記の内容を講義する				
達成目標	乳がんの標準治療に対する知識の習得				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂、 乳腺腫瘍学　日本乳癌学会編　金原出版				
準備学習(予習・復習・時間	上記図書の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	乳がんの標準治療について理解し自立して研究・発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　　（出席㊞）
1	乳がんの疫学・病理分類
2	乳がんの臨床像
3	乳がんの検査・診断法
4	乳がんの病期分類とガイドライン
5	乳がんの予後因子
6	乳がんの手術療法
7	乳がんの放射線療法
8	乳がんに対するホルモン療法
9	乳がんに対する化学療法
10	乳がんに対する分子標的薬
11	乳がんに対する術後補助化学療法（集学的治療）
12	乳がんに対する術前補助化学療法（集学的治療）
13	乳がん脳転移に対する治療
14	乳がん骨転移に対する治療
15	特殊な病態（Paget、潜在性乳がん、男性乳がん、乳癌と妊娠）

2025 年度講義シラバス（１２）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（Ⅱ）：乳がん・症例検討			必修/選択	必修
担当教員	津川 浩一郎	担当教員連絡先	内線 3223		
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	乳がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂、 乳腺腫瘍学　日本乳癌学会編　金原出版				
準備学習(予習・復習・時間	上記図書の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	乳がん症例の臨床的課題に対して自立して研究・発表する能力を習得する				

講 義 内 容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

2025 年度講義シラバス（１３）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（Ⅱ）:血液がん			必修/選択	必修
担当教員	富田　直人	担当教員連絡先	内線　3307		
単位数	1 単位（後期）	履修年次	1 年		
テーマと目的	血液悪性疾患に対する標準治療の理解				
講義計画	血液悪性疾患の疫学から集学的治療まで、下記の内容を講義する				
達成目標	血液悪性疾患の標準治療に対する知識の習得				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	血液がんに対する知識を身につけ、自身の研究を立案する能力を習得する				

講　義　内　容

後期(回)	内　容　　（出席㊞）
1	WHO 分類
2	急性骨髄性白血病（AML）
3	急性リンパ性白血病（ALL）
4	慢性骨髄性白血病（CML）
5	真性多血症（PV）
6	本態性血小板症（ET）
7	原発性骨髄線維症（PMF）
8	特発性好酸球増多症候群（HES）、慢性好酸球性白血病（CEL）
9	肥満細胞症
10	慢性リンパ球性白血病
11	骨髄異型症候群
12	非ホジキンリンパ腫（NHL）
13	ホジキンリンパ腫（HL）
14	成人 T 細胞白血病・リンパ腫
15	多発性骨髄腫

2025 年度講義シラバス（１４）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（Ⅱ）：血液がん・症例検討			必修/選択	必修
担当教員	新井　文子	担当教員連絡先	内線　3307		
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	血液がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	血液がんの問題点（臨床、基礎医学そして社会上の）を適切に抽出し、解決する能力を身につける				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

2025 年度講義シラバス（１５）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（III）：婦人科がん・症例検討			必修/選択	選択
担当教員	鈴木　直	担当教員連絡先	内線　3327		
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	婦人科がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	婦人科腫瘍学の知識に基づいて自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

2025 年度講義シラバス（１６）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（III）: 泌尿器がん・症例検討			必修/選択	選択
担当教員	菊地　栄次	担当教員連絡先	内線　3248		
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	泌尿器がん症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	臨床研究を立案・計画し、結果を考察して論文発表する能力を得ることを目的とする				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

2025 年度講義シラバス（１７）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（III）:骨軟部腫瘍・症例検討			必修/選択	選択
担当教員	原口　直樹	担当教員連絡先	内線　3433		
単位数	2 単位（前期）	履修年次	2 年		
テーマと目的	骨軟部腫瘍症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	骨軟部腫瘍症例の画像診断、化学療法と外科的手術の適応を整理し、臨床的に実践できる能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	1	
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

2025 年度講義シラバス（１８）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	化学療法各論（III）:頭頸部腫瘍・症例検討			必修/選択	選択
担当教員	小森　学	担当教員連絡先	内線　3257		
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	頭頸部腫瘍症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	臨床腫瘍学の知識に基づいて、自立して研究を行い論文を作成して発表する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

2025 年度講義シラバス（１９）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	放射線治療学:各論・症例検討			必修/選択	選択
担当教員	中村　直樹	担当教員連絡先	内線　3480		
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	放射線治療症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	放射線医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	

2025 年度講義シラバス（２０）

講義コード	※	専攻分野	臨床腫瘍学		
講義題目	緩和医療学:各論・症例検討			必修/選択	選択
担当教員	伊澤　直樹	担当教員連絡先	内線　3316		
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	2 年		
テーマと目的	緩和治療症例の臨床的問題点・疑問の把握と解決				
講義計画	日中に実際に診療した症例について指導教官と議論する				
達成目標	実際の症例についての臨床的疑問点を明らかにし、解決方法を探索できる				
教科書・参考書	新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編集、南江堂				
準備学習(予習・復習・時間	新臨床腫瘍学の該当部分を読むこと。　1 時間				
成績評価法	実際に診療した各臓器がん 1 例の臨床的疑問点について解決方法をレポートする				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	臨床研究を立案・計画し、結果を考察して論文発表する能力を得ることを目的とする				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。	1	1. 実際の診療に際して、臨床的問題点・疑問点を明らかにし、解決方法を文献検索などにより検討し、指導教官に提唱する。 2. 提唱した解決方法について指導教官と議論し、解決方法を決定する。 3. 試みた解決方法について、結果を含めて、各論講義について 1 単位 1 例ずつレポートを作成する。 4. 本レポートは、日本臨床腫瘍学会・薬物療法専門医試験の際に転用可能な形式とする。 5. 作成レポートについて、指導教官の評価を受ける。
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11		11	
12		12	
13		13	
14		14	
15		15	